珊瑚樹状腎結石症の1例

市立八幡浜病院外科 (医長 鎌田正勝博士)

松 岡 昇 三

Staghorn calculi a case report.

Shozo Matsuoka

Department of Surgery, City Hospital Yawatahama, Ehime.

(Director : M. Kamada, M.D.)

比較的稀な疾患とされている珊瑚樹状腎結石症の1例を経験したので報告する。

症例：67才女子，無職。昭和31年5月7日初診既往歴，昭和25年頃から肺結核症にて，本院内科に入院，昭和30年末退院。家族歴に著患を認めない。

主訴：食思不振。

現病歴：5～6年前，特に誘因と思われるものなく，排尿痛，疝痛様発作などを伴わず血尿を来し，2～3日間継続した事があるが，他に苦痛が無い為放置していた。然るに初診の約1カ月前から食思不振を来し，本院内科を訪れた所，左側腹部に巨大な腫瘤の存する事を指摘され，レントゲン単純撮影で左側の腎結石が発見されて外科へ転科した。今回は血尿を伴わず，他の自覚症状もない。

現症：全身所見：体格大，肥満体，栄養良好。胸部レ線写真で右中肺野に石灰化した示指頭大の陈旧性病巣を認める。四肢，脊柱正常。血圧最高180 mmHg，最低120 mmHg。高血圧症を伴うが自覚症状を欠く。血中残余窒素量は測定していない。血液理化学的所見は略々正常。梅毒血清反応陰性。

腹部局所所見：腹部は全般に軽度に膨隆しているが，腹壁の静脈異常怒脹，異常着色等を認めない。触診で筋性防禦を証明しないが左側腹部に抵抗を触知する。左側腎臓は左乳嘴線上肋骨弓下4横指径に触れ，下極の境界鮮鋭。脾臓及び右側腎臓，肝等は触れない。

泌尿器科学的に，カテーテル尿は高度に混濁

し，淡黄白色，pH 6.4～6.5。蛋白強陽性，ウロビリノーゲン陰性，糖陰性。沈渣には，白血球1視野中無数，大腸菌1視野中5～6。赤血球，上皮細胞，塩類等は認められない。膀胱鏡検査では容量170 cc，底部は浮腫状に腫脹し血管不明瞭。インデゴカルミン排泄は，右側6分で始まり，左側は尿が混濁し，13分に至るも排泄を認め得ない。

レ線所見殊に経静脈腎盂撮影で下図の如く左側腎部に巨大な結石陰影を認めるが，右腎は略々正常である。

経静脈腎盂撮影

以上の所見から，左腎結石症及び機能の廃絶と膿瘍形成を疑い，昭和31年5月30日手術施行。

手術所見：Israel-Bergmann氏切開法により左側腎臓を露出すると，左腎は小児頭大に腫脹し，上極側 $\frac{1}{2}$ は膿腫状で波動を呈し，下極側 $\frac{1}{2}$ は充実性で板状硬，表面には大小の隆起が存する。上極側では周囲結締組織との癒着が密であるが，下極側

では粗で鈍性に剝離が容易である。上極側を剝離中膿腫が穿破し、糞便臭を有する赤褐色濃厚な膿汁約 300 cc の流出後、著明に萎縮して手拳大となり、容易に剔出し得た。手術創には排膿管を挿入し、ドミアン粉末 5 gm, ペニシリン 40 万単位、ストレプトマイシン 1 gm を撒布、注入して型の如く縫合。術後の経過良好で 7 月 12 日退院。

剔出標本所見：左腎の大きさ、 $15 \times 7 \times 6$ cm で、重量 430 gm。剖面は、上極側 $\frac{1}{2}$ に濃厚な膿汁が残留し下極側には重量 15.2 gm の珊瑚樹状結石 1 個が存し、腎盂腎蓋を充たしている。腎盂粘膜は上極側では粗で発赤し、下極側殊に結石の存在部位では黄白色の厚い、粘膜から隆起した、恰も白い薄板を貼りつけた感じの部分がある。然し組織学的に該部は白板症の像を示さず、他部にも特異性組織像を認めない。非特異性炎症像のみを認める。

考按：珊瑚樹状腎結石 (Korallenstein, staghom calculi) は、腎盂腎蓋内に在つて移動性が少ない為、臨床上腎結石に特有な疼痛を訴えない事が多く、此の為放置されて医師を訪れるまでの期間が長く、結石増大の一原因と考えられている。

諸家の統計による性別では、一部には女性に多いと云うが、大多数は男子に多いと云われる。年齢は比較的高令者に多く、罹患率は 15.0%~21.6% に両側に発生すると云う。

臨床像としては、他の腎結石と同様で疼痛、尿混濁、血尿等が挙げられているが、疼痛は比較的軽度で、腎疼痛は僅少であると云われている。結石の重量は大部分 50 gm 以下である。

本症例も過去に疼痛を訴えず、血尿のみを来した事があるが、数年間放置していた為、斯かる巨大な結石を来したものと考えられる。主訴、臨床像等も上述の諸説と一致する点が多い。

摘出標本

結語：67才の女子で、重量 430 gm の膿腫腎を伴い、15.2 gm の結石を有する、左側珊瑚樹状腎結石症の 1 例を報告した。

稿を終るに臨み、御校閤を賜つた恩師青柳安誠教授、岡宗夫教授、御指導御校閤を賜つた医長鎌田正勝博士並びに皮膚泌尿器科医長市橋貞三博士に深甚な謝意を捧げる。
(昭和 31 年 7 月 22 日愛媛県南予地区医学会発表)

主要文献

- 1) 村上, 小川：日誌誌, 21 巻, 8 号, 359 (昭 7)
- 2) 三井：岡山医誌, 49 巻, 189 (昭 12)
- 3) 小島, 戸沢：体性, 28 巻, 3 号, 160 (昭 16)
- 4) 楠：尿路結石症 (昭 24)
- 5) 畑, 姉小路：臨牀皮泌, 6 巻, 7 号, 338 (昭 27)
- 6) 八丁目：臨牀皮泌, 9 巻, 3 号, 160 (昭 30)